

北海道国際理解教育 研究協議会 会報

第 15 号
代 表 員 登
事務局 長 大泉 弘
事 務 局 板垣 修
1990
発 行 10・20

網走大会へ多数の参加を期待して

会長 磯貝 登

(岩見沢市立緑小学校長)

北海道にしては、珍しいほどの暑い夏でしたが、初雪の便りもきかれるようになり、平地で雪と再会するのも間近になって参りました。

会員の皆様には、益々ご健勝で国際理解教育の実践活動と取り組んでいることと存じます。

さて、すでに各支部等を通じて、全道大会の第二次案内を会員をはじめ関係各位にお届けしておりますが、今回は森と湖に恵まれた大自然の中で、たくましく生き、北方文化の未来を創造するオホーツクの拠点都市網走市における開催であります。また、研究主題としましては「世界に目をひらく児童・生徒の育成」であります。多数が参加し、学校と地域における国際理解教育をどう進めるかについて日常実践を交流し合い有意義な研究大会にしたいものです。

緊迫しております中東情勢を例にあげるまでもなく自国や自分の意にそわないものを力で排除したり、異質なものを白眼視するという時代ではありません

しかし、私たちの周囲を見渡しても、画一的なものを求める傾向が強くなります。海外から帰国した子どもたちに対するいじめが、後をたたないのもそれでありましょうし、きまりにかかる問題が全国的に多発しているのも同様に考えることができます。

児童・生徒が、これからの国際社会で活躍していくためには、違いを学び、それを認め合う心の育成を教育の場ばかりでなく日常のあらゆる生活の場面で実践していかなければなりません。異質なものを理解するには、まず自国の文化を理解することが前提であります。

五年間、日本で留学生が、「日本文化を説明できぬ日本人」と題した一文を

ある新聞に寄せていましたが、自国の文化を正しく説明できるように私たち自身も研鑽してこどもたちに伝えていかなければならないと考えます。さらに、積極的に日本文化について、あらゆる機会をとらえて世界の人に紹介する努力をしていかなければならないでしょう。

理解し合うためのコミュニケーションには、いろいろな方法があります。全道各地や各学校で実践していることを、今回の研究大会で相互に交流していただきたいと思います。

地元、網走市、網走管内の皆様には、諸準備・研究紀要の作成、授業実践に大変なご尽力をいただいております。このことに心から感謝申し上げますとともに、これらのご努力にこたえるためにも、ひとりでも多くの関係の皆様が、意欲的に研究大会に参加していただく事を期待しております。

平成2年度

第11回北海道国際理解教育研究大会網走大会

開催要項

第3回網走管内国際理解教育研究大会

大会主題

世界に目をひらく児童・生徒の育成

～学校と地域における国際理解教育をどうすすめるか～

1. 目的

現在、我が国は、政治・経済・文化・スポーツ・芸術等の各分野において国際化が急速に進んでおり、こうした中であって、国際社会に貢献し、信頼される日本人の育成は教育に課せられた重要な課題となっております。

私たちは、これまで10回にわたり全道各地において研究大会を開催し、一定の成果を得ました。今後は、人間尊重の精神を一層徹底し、学校と地域の連携を深めて、全ての児童生徒が、世界に大きく目をひらき、望ましい国際理解の認識のもとに、国際社会に生きる日本人としての資質を醸成することを願い本大会を開催するものです。

2. 期 日 平成2年11月1日(木)～2日(金)

3. 開催地 網走市

4. 会 場

網走市立網走小学校	小学校授業公開	網走市桂町1丁目1-1	(0152) 43-4391
網走市立第一中学校	中学校授業公開	網走市台町1丁目	(0152) 43-4358
北海道網走南ヶ丘高等学校	高等学校授業公開	網走市台町2丁目13-1	(0152) 43-2353
網走セントラルホテル	開閉会式、分科会 講演	網走市南2条西3丁目	(0152) 44-5161

5. 大会日程

第1日目 〔11月1日(木)〕	14:00	15:00	16:30	18:00	20:00							
第2日目 〔11月2日(金)〕	8:20	8:50	9:40	10:05	10:50	11:20	12:00	12:40	13:00	14:30	16:00	16:20
受付 (中高)	中 高 校 授業公開	移動 (小受付)	小 学 校 授業公開	移動	開 会 式 基調報告	昼 食	ア トラ ク シ ョ ン	分 科 会	講 演	閉 会 式		

6. 記念講演

演題 「網走で国際化を考える」

講師 平野 次郎氏 NHK報道局国際情報記者

(前ニュースセンター9時ニュースキャスター)

7. 授業公開

・網走小学校	1年1組	指導者	教諭	林 秀 明
	3年2組	指導者	教諭	岩 間 春 明
	5年1組	指導者	教諭	加 藤 一 大
・網走第一中学校	1年A組英語	指導者	教諭	松 木 利 光
	1年C組音楽	指導者	教諭	後 藤 恵
・網走南ヶ丘高等学校	3年 国際理解教育 科目選択受講生組	指導者	教諭	篠 原 暢 子

8. 分科会

第1分科会「小・中学校における国際理解教育をどうすすめるか」

提言者 網走・訓子府町立訓子府中学校 教諭 国 安 民 雄
十勝・清水町立下佐幌小学校 教諭 本 間 武

第2分科会「高等学校における国際理解教育をどうすすめるか」

提言者 北海道網走南ヶ丘高等学校 教諭 佐々木 透 司

第3分科会「地域における国際理解教育をどうすすめるか」

提言者 網走・北海道国際交流センター紋別支部 粟 野 義 光
網走・丸瀬布町オホーツク国際交流センター 磯 貝 勝 幸

9. アトラクション 網走小学校金管クラブ

10. 大会参加について

(1) 費用 ア、大会参加費 3,000円(含紀要代)

イ、昼食代 700円

ウ、交流懇親会費 5,000円

(2) 申込み方法

〒093 網走市桂町1丁目1番1号

網走市立網走小学校 長 尾 守 宛

TEL (0152) 43-4391

BUENOS DIAS! バルセロナです

バルセロナ日本人学校長 白井 潔

〔どさんこ先生異国に住んで〕

“世界で最も美しい通り”と英国の作家サマセット・モームが激賞したランブラス通りのプラタナスもすっかり葉を落し、遊歩道を行き交う人々にバルセロナの秋の到来を告げている。

年間日照時間三千時間以上、その陽の光のまぶしさに思わず目を細めてしまう。そんな異国スペインのまっただ中での一年半は、未知の自分との出会いや体験の連続するうちに、かけがえのない濃密さをもって過ぎていった。

残された期間、健気に学ぶ小さな国際人とそれを支える親や教職員スタッフと共に悔いすることのないためにも一層努めて参りたいと考えている。海外派遣の体験を持つ「道産子」先輩諸兄の温かな声援を心から期待しているところである。

〔建設が急がれる新校舎〕

バルセロナ日本人学校は1986年4月に設立され今日に至っている。開校当初は21名の児童生徒であったが1992年の欧州共同体（EC）の市場統合や、クーベルタンの近代オリンピックの提唱から100年目にあたる記念大会、コロンブスの新大陸発見500年祭など国際的・地球的規模の行催事の開催とともに、カタルニア州政府の積極的な企業誘致政策によって、バルセロナ地域における日西の経済・文化・技術等の交流は急ピッチで進展している。

これに伴って、家族同伴の邦人駐在員数も大幅に増加するとともに、児童生徒も急増の一途をたどり、平成2年9月1日現在で108名を数えるに至っている。これらに対応するために、バルセロナ郊外に新校舎を建設することを決意し、今、運営委員会を中心に積極的にその準備を進めているところである。

〔全校で気力と体力の充実を〕

児童生徒の増加と共に校舎や運動場が手狭となり、とかく子ども達の運動不足が目立つようになってきた。それを少しでも補うために体育の授業は、ヨーロッパのサッカークラブの雄、FCバルセロナのサブグラウンドを借用し実施し

ている。また、地域の特性を生かしながら、夏はプールで水泳を、冬は室内リンクでスケートの授業を展開をしている。更に始業前の持久走や業間縄とび、ダンス等を導入するなどして、全校をあげて体力の向上と気力の充実に務めている。この10月に実施する校内マラソン大会は、オリンピックのメインスタジアム周辺のマラソンコースを利用して実施する。この大会には、バルセロナ市役所のスポーツ課と警察署が積極的に支援して下さるなど日西の友好マラソン大会となるはずである。

〔地球人を育む交流学習〕

スペイン人は、総じて遊び上手であり、宵っばりの朝寝坊が多い。バルセロナっ子もまた然りである。しかし、子ども達は滅法明るく屈託がないので、国際理解教育を推進する上で極めて大切である。ふれあいを通して理解を深め合うことは比較的容易であるといえる。そんな中で、過日現地校のイブシ校と合唱と折紙による日本文化の交流をすすめた。10月には、開校以来の姉妹校関係を結んでいるインドロマルティ校を招へいし、各学年毎に心のこもった交流会を持つことになっている。また、本年度の学芸会の中で、一部の学年の合唱や劇への両校合同出演を試みようとしている。これは、より深い継続的な国際交流を推進するための布石と考えている。

申し述べるまでもなく、日本人学校の役割は、単に学力の向上という面だけではなく、世界の中の日本という立場をとらえ、何をどのように考え、行動すべきかを国際的視野から判断できる地球人を育むことに他ならない。

暮れなずむミランダの丘に、時としてのどかな羊群の鈴の音が響く。そんなダイナミックな自然の中で、道産子校長は今日も意気高らかである。

バルセロナから白井先生のご近況をお知らせいただきました。本号に掲載させるために国際宅急便の至急便を使って、スペインの香りをお届けいただきました。ありがとうございました。

白井先生より原稿に合せて、バルセロナ日本人学校の学校だより『バルセロナ』がお送りいただきました。次号で一部をご紹介します。

平和を祈る

クウェイト日本人学校（90年4月～93年3月）

現 旭川愛宕中学校

上 野 和 幸

イラクのクウェイト侵攻から、すでに三か月近くの日が過ぎました。今回の一件では皆様方に私共家族の安否にかかわり、多大なご心配をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

お陰様で無事帰国することができ、地元旭川にてゆっくり休ませていただきました。しかし、いまだクウェイトをめぐる中東情勢は何ひとつの進展もなくイラクに残る日本人の帰国も先の見えない状況です。残された方々や、その帰国を待つ御家族の気持ちを考えますと心が痛みます。一日も早く平和的な解決がなされ、帰国されることを祈っています。

さて、侵攻前のクウェイトについてですが確かに暑く、自然環境は厳しい国でしたが物が豊富で治安も良く、日本人に対しても大変友好的でした。私達も「良いところへ来てよかった。」と心から喜んで生活していました。一学期のはじめは自然環境や習慣の違いで戸惑いがあり、かなり苦労しましたが一学期の終わり頃にはすっかり慣れ「これから」と意気込んでいるときでした。夏休みになり、7月13日から29日まで健康回復旅行でヨーロッパへ出かけました。

その間27日には、クウェイトへ電話を入れ、国内のようすを確かめました。が平穏ということで予定通り29日の夜十時にクウェイトへ戻りました。今回のことは、全く突然のことで8月2日朝、日直のため学校行く準備をしていたところ教頭から電話があり、空港が爆破されたことがわかりました。外出も禁止され、次の情報を待って一時間後、大きな音とともに家の前の道路には戦車が走り銃声が響きました。長男に「もう僕達ダメなの？」と聞かれた時には親として大変辛く「だいじょうぶだよ。神様が守ってくれるよ。」としか言えませんでした。

8月4日から21日までの間は大使館に避難し地下で生活することになりました。クウェイトに当時いた日本人ほぼ全員278人と一緒でした。一日に二

回の食事と男性は三日に一度のシャワーと制限もありましたが規律正しく組織的であり、全員が『生きる』ために、仕事を分担しての生活には感動させられました。したがって生活面での不安はあまり感じませんでした。 「いつ帰国できるのか」の見通しが全くたらず「ここが戦場になったらどうしよう」という不安は常に心の中にありました。

その後、私達は日本国政府の勧告に従い22日バグダットへ向かうことを決断し、第二陣で移動しましたが、その先の見通しは全くありませんでした。しかし、幸運にもイラク政府の指導のもとにアンマンへとイラクを出国することができました。この間、一日として安心して眠ることができず、子ども三人を連れての移動は大変辛く体力的にも精神的にも限界に近いものでした。

派遣教員として、ある程度の覚悟はして出発しましたが、このような事態になるとは全く予想もしていませんでした。日本に帰り、平和がこれ程すばらしく大切なものだと思えて考えさせられました。

今はただ「生きている」ことに感謝し、この体験を通して学んだことを、こどもたちやまわりの方々へ伝えていくことが私に与えられた役割だと考えています。

一日も早い平和的な解決を心から祈っています。

釧路国際理解教育研究大会

テーマ『学校教育において国際理解教育をどう進めていくか』

期日：平成2年11月27日（火）13：00～16：30

会場：釧路市立鳥取西小学校 授業者 本川 敬一先生

主催：釧路管内海外教育事情研究会

後援：北海道教育庁釧路教育局 釧路市教育委員会

<申し込み先> ☎084 釧路市武佐4丁目3番42号

釧路市立武佐小学校内

釧路管内海外教育事情研究会事務局

樋原 永幸 宛

<申し込み締切り> 平成2年11月22日（木）まで

研究収録『かけはし』のご案内

渡島国際理解教育研究会発行

- 内容
1. 国際理解の推進のために
 2. 第6回渡島国際理解教育研究大会の記録
 3. カリキュラム試案に対する実践記録

これらの他、機関誌が収録されており、全道で国際理解教育に取り組む会員のすばらしいマニュアルになると思います。

事務局たより

1. 業務経過報告

6月15日	広報『14号』発行
8月9日(木)10日(金)	第17回全国子女教育研究大会 全国国際理解教育研究大会開催 道より会長・事務局次長・広報部長の出席
9月26日	国際理解教育をテーマに公開研究会 白老町立虎杖中学校を会場に開催
10月20日	会報『15号』発行
11月1日2日	第11回北海道国際理解教育研究大会 第3回網走管内国際理解教育大会開催
11月27日	釧路国際理解教育研究大会
12月10日	会報『16号』発行予定

2. 次号の掲載予定

- ・会報の送付に合わせて、会費の納入状況個票をお送りします。
納入方よろしくお願ひします。
- ・各支部の活動状況を事務局までお知らせください。

3. 寄稿のお願い

- ・会員の日常実践や近況をお知らせください。